


















令和5年度国際理解ワークショップ 進行シート

令和 5 年 10 月 15 日作成

大学名： 敬和学園大学

タイトル： 「あなたの権利を知っていますか？」～世界中の子どもたちが持つ権利
あなたがあなたを主張する権利～

1. 本ワークショップに関連するSDGsの目標に○印をつけてください。

○印	SDGs17の目標	○印	SDGs17の目標	○印	SDGs17の目標
					
					
					
					
					
					

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

2：本ワークショップの要旨

1989年に国連で採択され、1994年に日本で批准された子どもの権利条約。子どもの様々な権利が保障されている条約が、なぜ必要で、なぜ当事者である子どもがこの権利を知らなければいけないのかを考えるワークショップです。

3：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

今回取り上げる第31条の休み遊ぶ権利を生徒が理解し、それを相手に伝えられるようになること、伝えることは間違っていることではないと認識してもらうことを目標としています。

4：本トピックをとりあげる理由

ファシリテーターの中に実際に幼少期に自分の意見を言えずに苦しんだ経験をしたメンバーがいたため、そのような思いを皆さんにしてほしくないという思いからワークショップを作成しました。

5 : 活動過程

(使用時間 : 90分 参加人数 : 5人)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反 応、その他注意 事項
導入 : 起 (25分)	はじめの挨拶	明るく笑顔で	和ませる	パソコン、テ レビ	緊張で場の雰囲気 がかたい
初めの挨拶 と大学生の 自己紹介 (5分)	自己紹介	聞き取りやすい 大きな声で行う	大学生のこ とを知って もらう		
アイスブレ イク (15分)	アイスブレ イク	緊張を解きほぐ すために嘘を混 ぜた自己紹介ゲ ーム	お互いの名 前だけでなく、好きな ものや趣味 を知る		

<p>展開：承 (30分)</p> <p>子どもの権利条約の説明 (15分)</p> <p>話し合い (10分)</p> <p>説明 (5分)</p>	<p>子どもの権利条約についての説明</p> <p>遊びについての話し合い</p> <p>遊びについての説明</p>	<p>スライドを使って説明する</p> <p>各グループに1人学生が入りサポートする</p> <p>スライドを使って説明</p>	<p>なぜ権利があるのか、なぜ生徒に必要なのかを知ってもらう</p> <p>遊びとはなんなのかを考えてもらう</p> <p>遊ぶことが良いことである科学的根拠の説明</p>	<p>パソコン、テレビ</p>	<p>なかなか意見が出ない可能性があるため、分かりやすく例を提示する</p> <p>難しい言葉がいくつか出てくるため、解説しながら話す</p>
<p>発展：転 (25分)</p> <p>クイズ (10分)</p> <p>話し合い (15分)</p>	<p>睡眠の説明をしてから、偉人と睡眠の関係性についてのクイズ</p> <p>休暇はなぜ必要かについて話し合い</p>	<p>スライドを使って説明</p> <p>各グループに1人学生が入りサポートする</p>	<p>ロングスリーパーとショートスリーパーと偉人の関係性について知ってもらう</p> <p>休暇をとることがなぜ大切なのかを理解してもらう</p>	<p>パソコン、テレビ</p>	<p>知らなかったや、意外だという意見が出ると考える</p> <p>勉強のしすぎや、休みのない部活では体が疲れてしまうから</p>

まとめ：結 (10分)	ワークショップ のまとめ	感想なども発表 してもらう	理解を深め る	パソコン、テ レビ	代表で発表をして もらう人が見つか らない場合は先生 から指名してもら う
----------------	-----------------	------------------	------------	--------------	---

6：会場のセッティング（対面の場合のみ）
生徒を10人で一つのグループにする

7：使用する教材
パソコン、テレビ

8：参考にした資料
キナリノ（2019）.自分のための大事な時間だから。心が疲れた時に必要な「休む勇気」について.

9：その他